

令和3年度 血液事業への取り組みについて



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

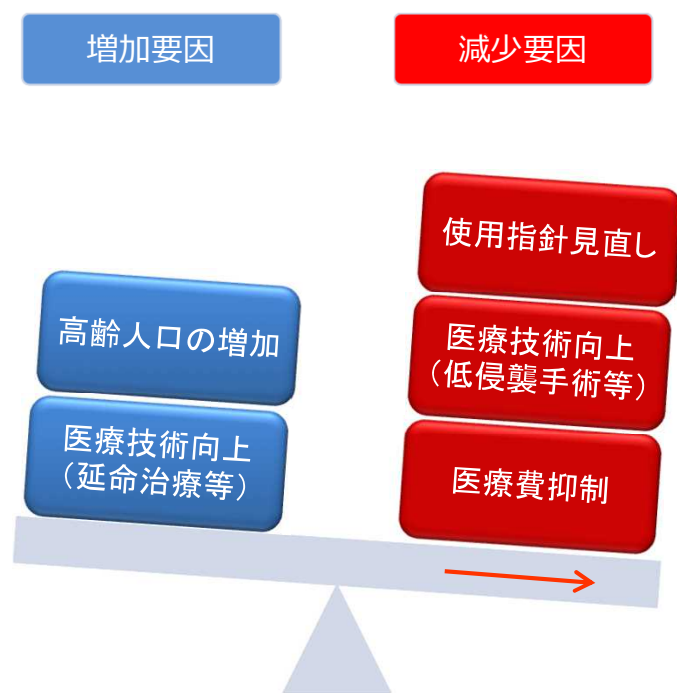
令和4年9月14日(水)
血液事業部会運営委員会

1 令和3年度事業概要

○ 輸血用血液製剤の需要動向

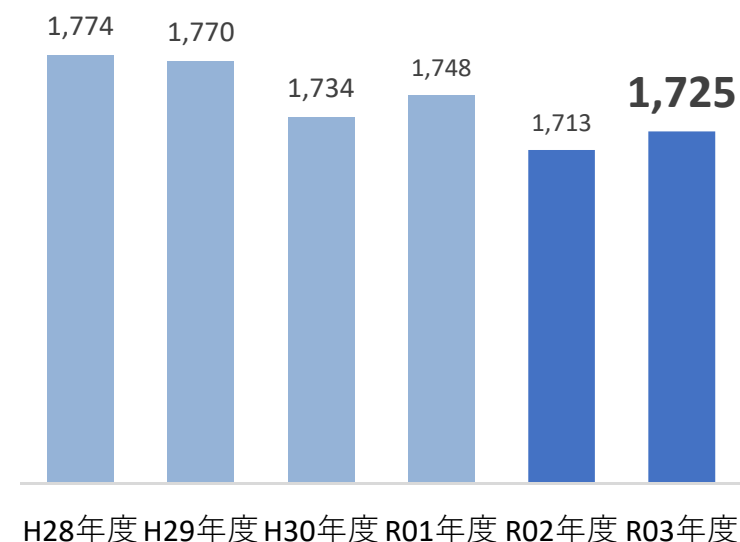
輸血使用量の多い高齢人口が増加しているが、医療技術の向上、適正使用の推進等により、この数年、漸減傾向にある。

輸血の需要状況



輸血用血液製剤の供給量

(万本)

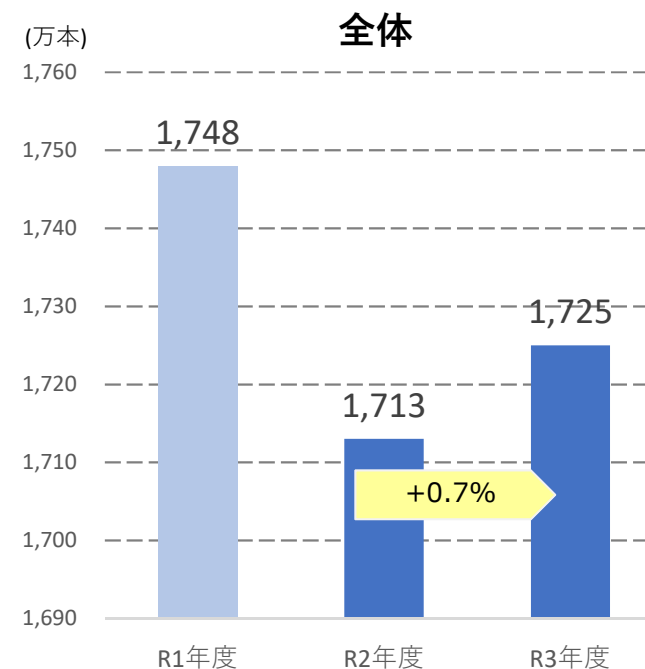


今後も漸減傾向

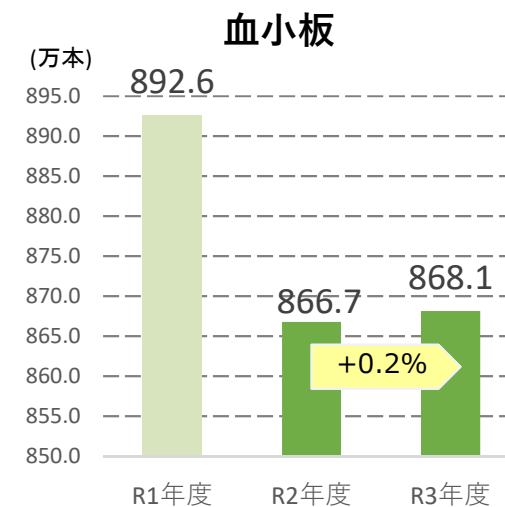
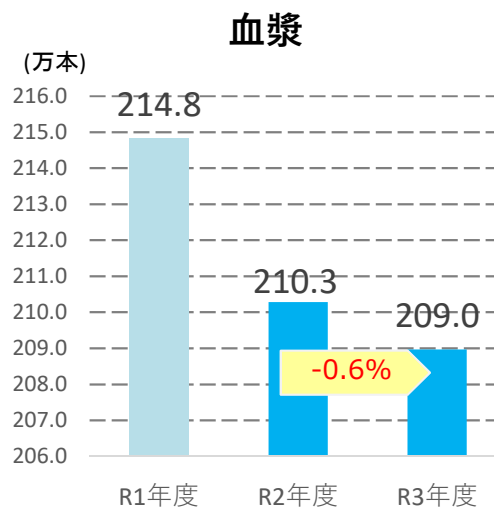
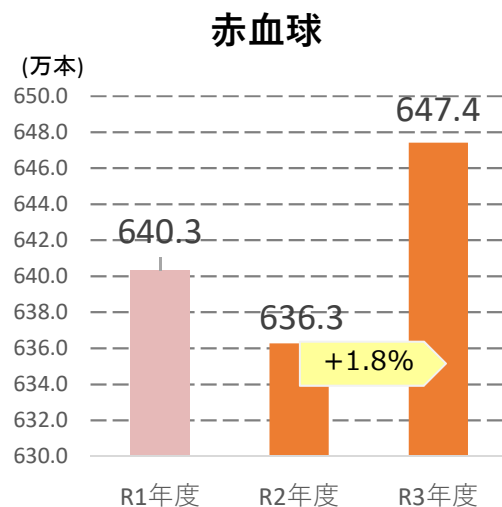
製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数
 FFP-LR120は1単位、FFP-LR240は2単位、FFP-LR480は4単位として換算

○ 製剤別の供給状況

- 全体は前年度実績に対し、**0.7%増**の1,725万本
- 赤血球は**1.8%増**の647.4万本
- 血漿は**0.6%減**の209.0万本
- 血小板は**0.2%増**の868.1万本



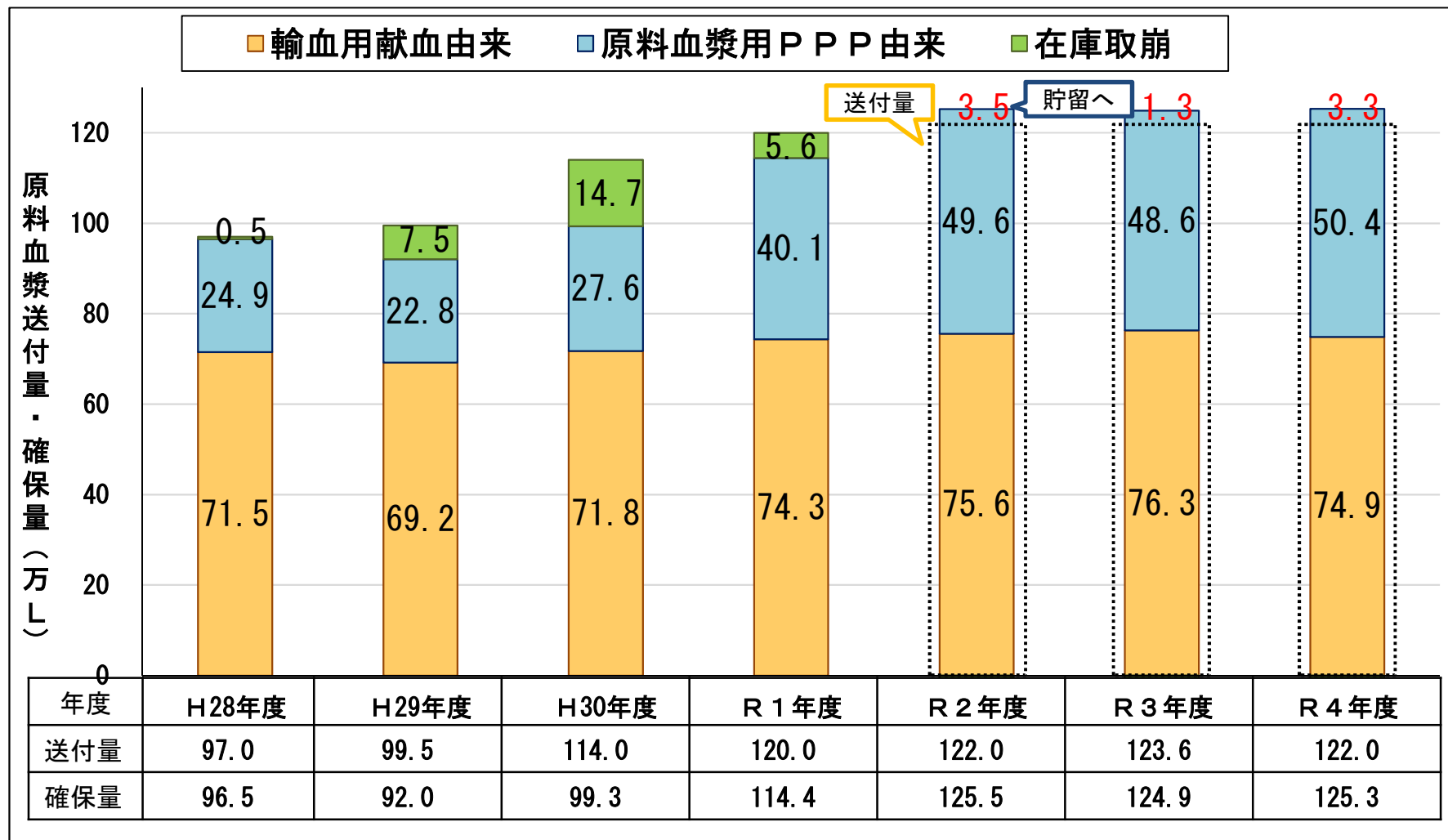
※製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数



医療機関に対して、血液製剤を安定的に供給

○ 血漿分画製剤用原料血漿の確保及び送付状況

平成28～令和3年度実績値・令和4年度事業計画値



※ 端数処理により合計値が不一致となる場合があること。 4

○ 新型コロナウイルス感染症治療への協力

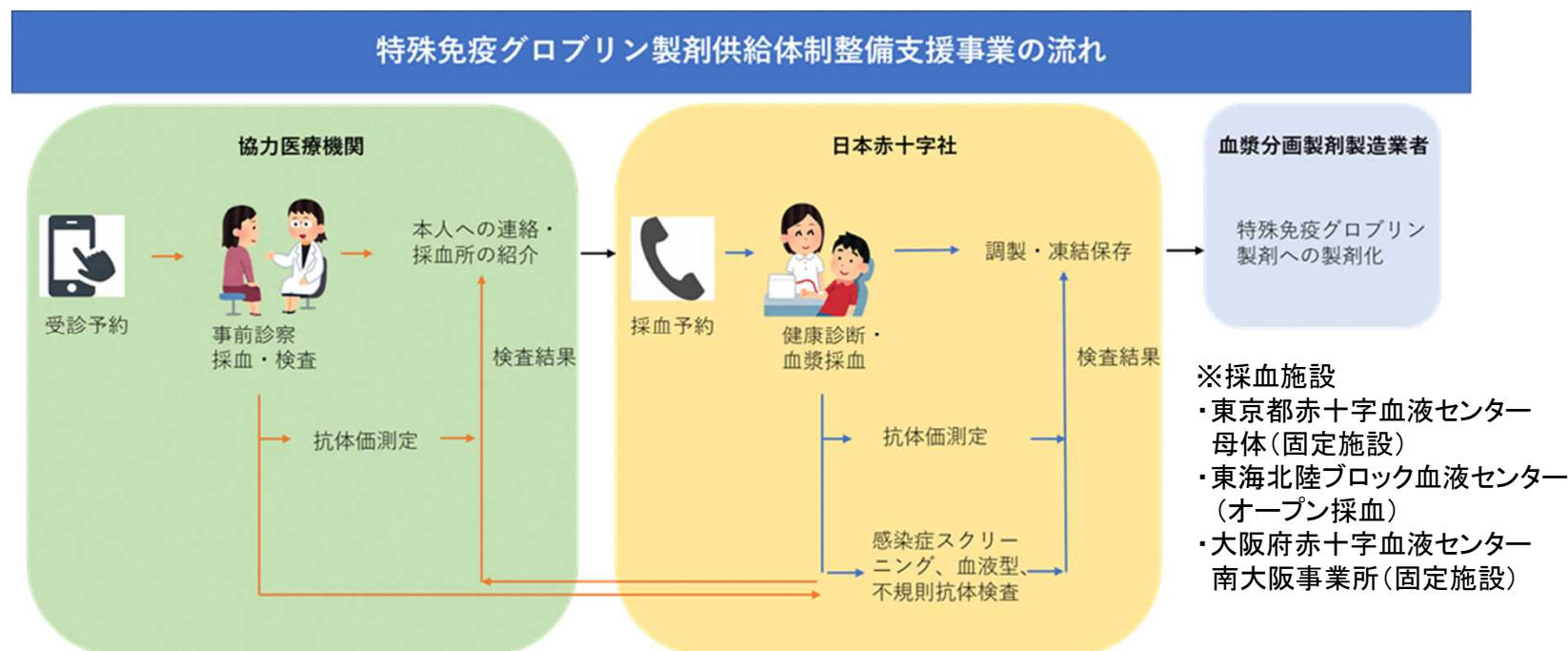
・「特殊免疫グロブリン製剤供給体制整備支援事業」への参画

1 目的

今後想定される新興・再興感染症への対応も考慮し、新型コロナウイルス感染症治療薬としての特殊免疫グロブリン製剤の原料となる原料血漿を確保・供給するための体制を整備すること。

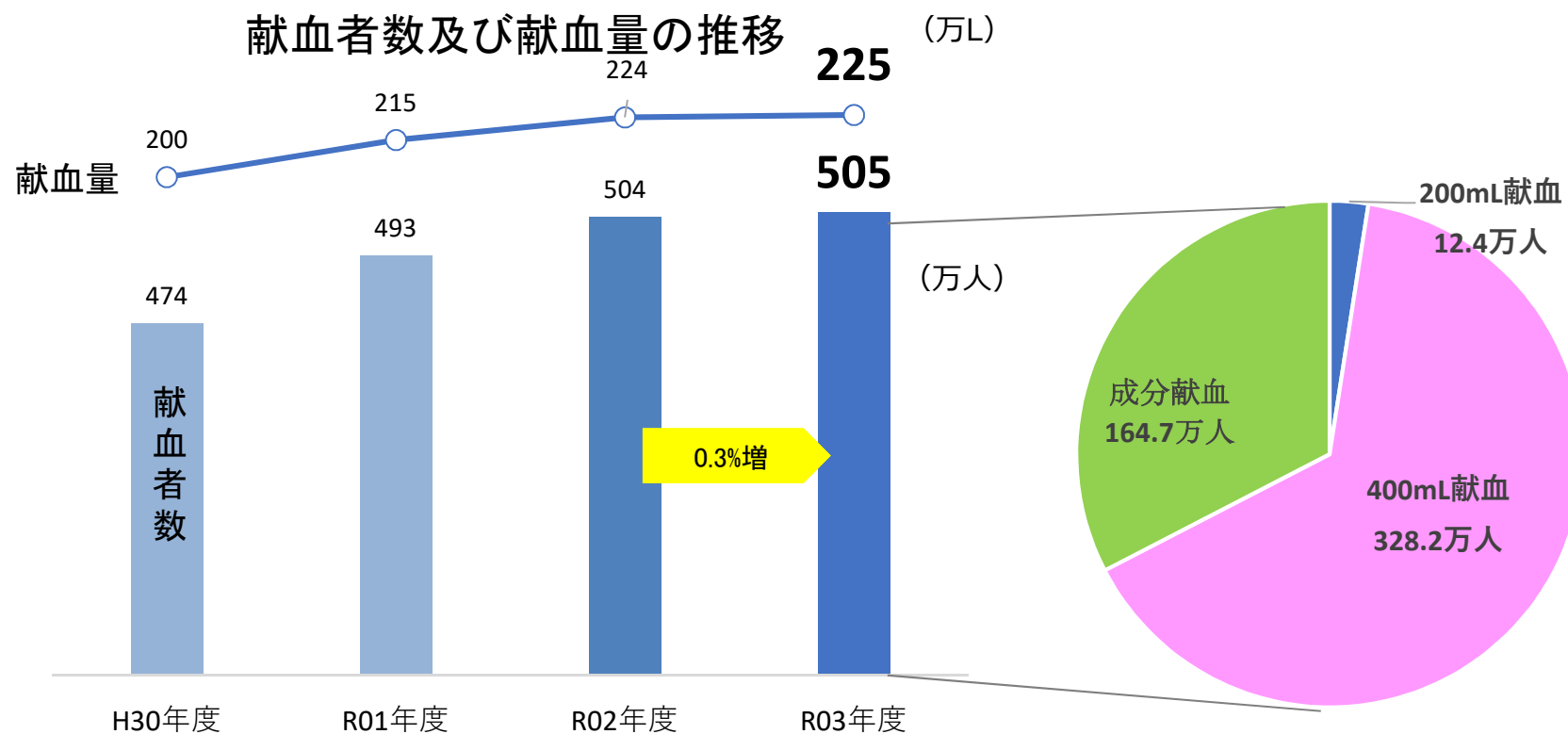
2 実施期間

令和3年9月から令和4年2月まで



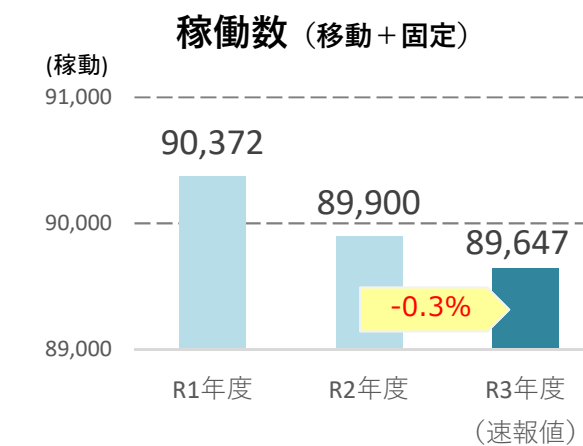
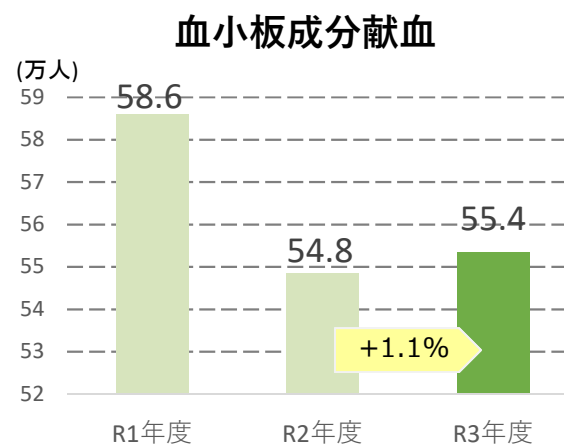
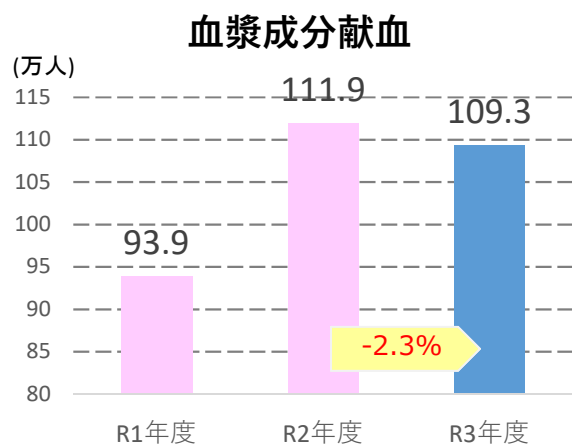
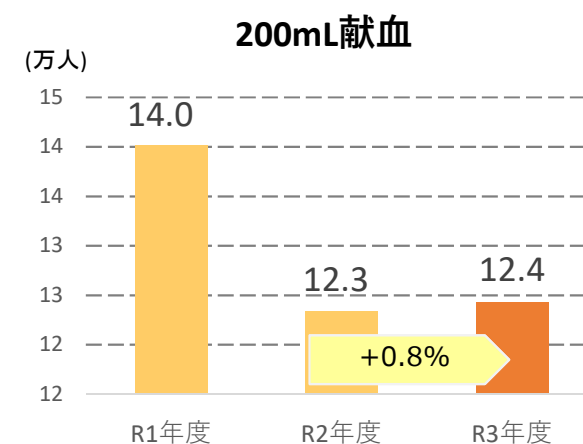
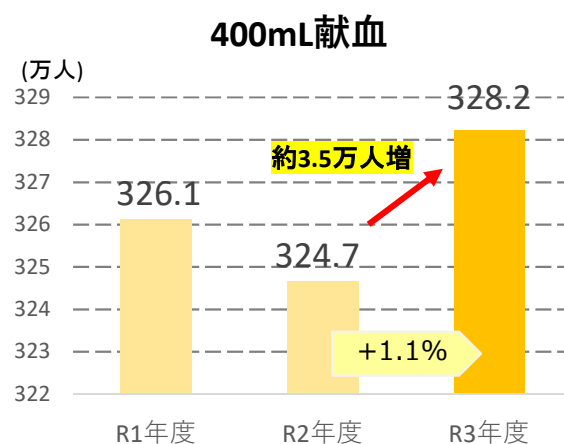
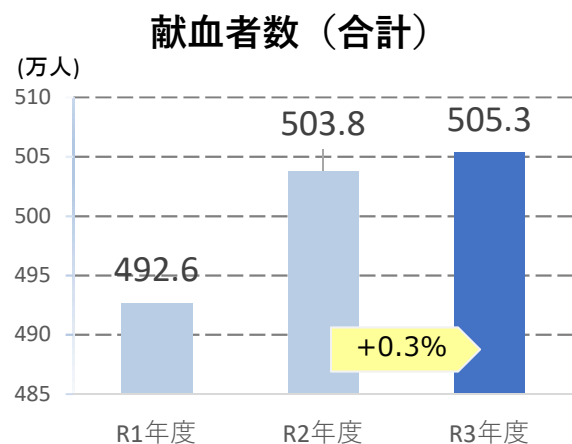
○ 献血協力の状況

血漿分画製剤の需要増加に伴い、必要血液量も増加するなか、400mL献血、成分献血を中心に、需要に見合った血液量を着実に確保した。



○ 各献血種別の献血者数

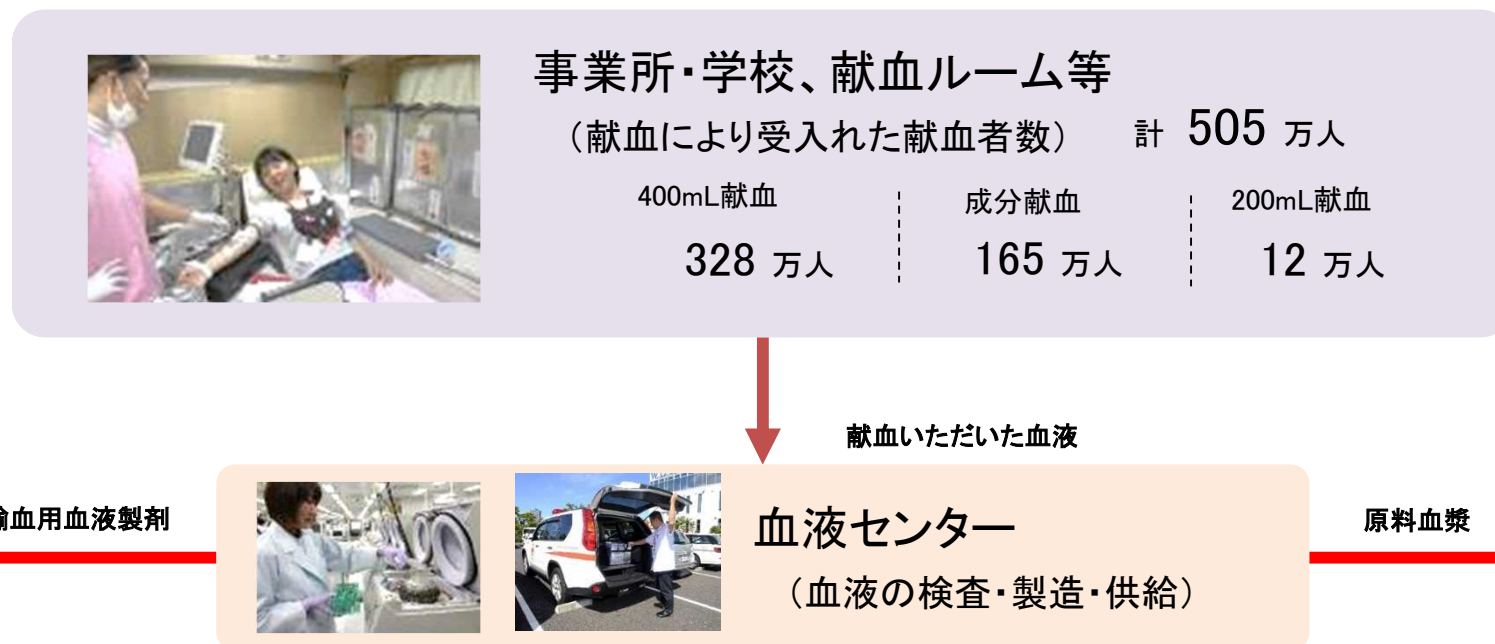
- 献血者数は前年度比で約1.5万人の増加



医療需要に見合った血液量を着実に確保

【参考】 事業概況

505万人の方から献血のご協力をいただき、
 1,725万本の輸血用血液製剤を医療機関に供給するとともに、
123.6万Lの血漿分画製剤用原料血漿を製薬メーカーに送付している。



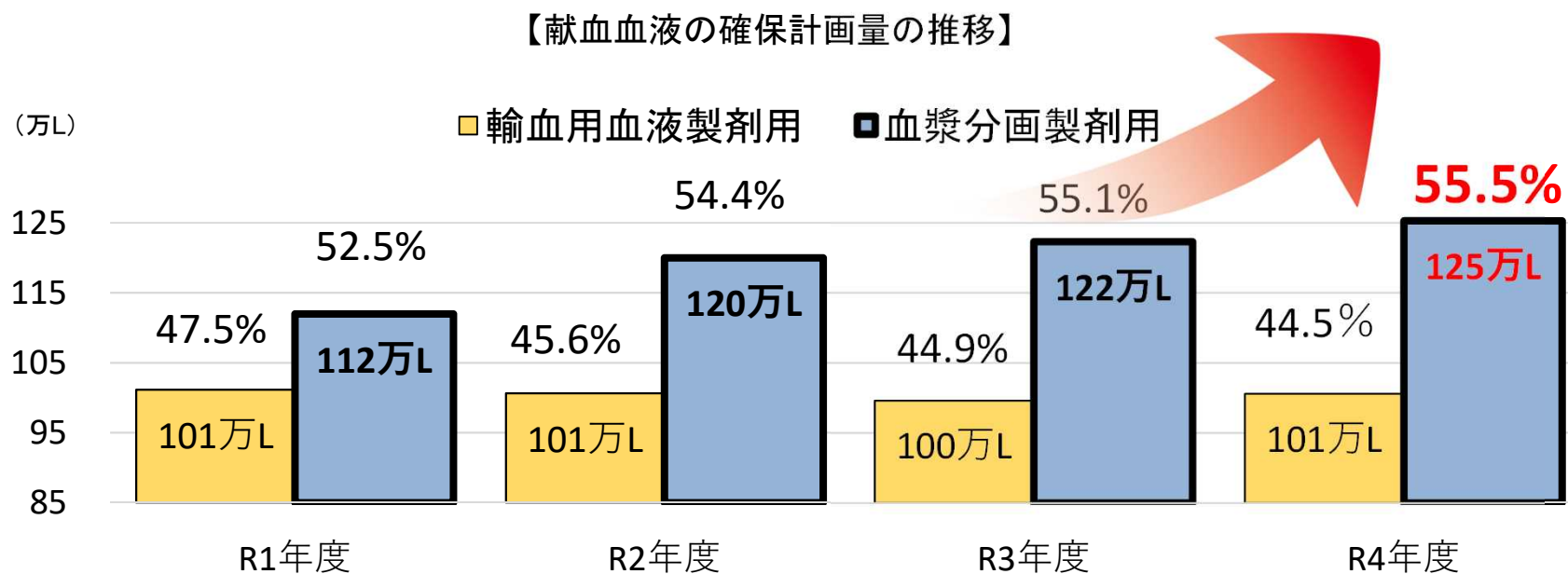
2 令和3年度事業の主な取り組み事項

- (1) コロナ禍における必要血液量の確保対策
- (2) 新型コロナウイルス等の感染症に対応した広域事業運営体制の検討
- (3) 供給部門における体制・業務の見直し
- (4) 血液製剤の安全対策の実施
- (5) 造血幹細胞事業の推進
- (6) 国際協力・海外交流の実施
- (7) 新たな事業の展開
- (8) 事業の効率的運営の推進

コロナ禍における必要血液量の確保対策

(1) 令和3年度の目標

- 事業環境の変化にも対応した必要血液量の安定確保
(在宅勤務やオンライン授業の定着による企業・団体献血の変容)
- 免疫グロブリン製剤を中心とした、血漿分画製剤の需要増加に伴う原料血漿の確保
- 少子高齢化やコロナウイルス蔓延の影響を受け減少した若年層献血者への対応

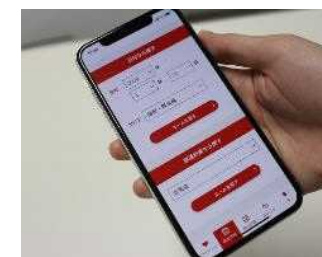


(2) 目標に対する主な成果

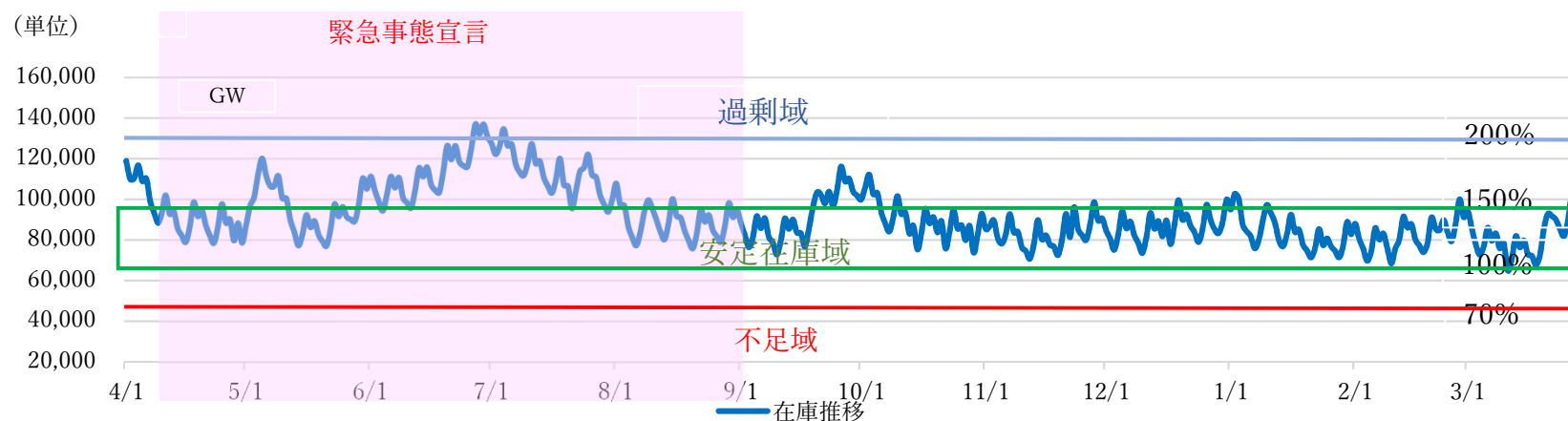
ア 献血事前予約の推進

- 献血Web会員サービス「ラブラッド」による献血事前予約を推進し、年間を通して、着実な献血者確保に繋がった。

	ラブラッド会員数	全献血者に占める予約率	予約率 (血小板成分献血)	予約率 (血漿成分献血)	予約率 (全血献血)
ラブラッド導入時 (平成30年11月)	約155万人	8.0%	28.9%	21.4%	1.5%
令和2年度終了時	約247万人	27.9%	67.6%	61.3%	10.3%
令和3年年度終了時	約296万人	38.7%	79.2%	74.0%	20.9%
増減 令和2年度と令和3年度	約49万人増	10.8ポイント増	11.6ポイント増	12.7ポイント増	10.6ポイント増

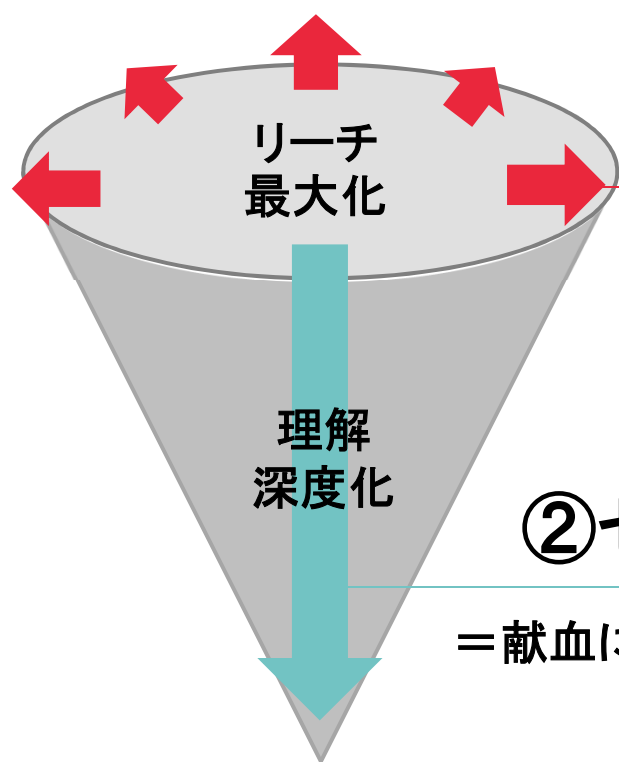


【赤血球製剤在庫の推移(令和3年4月～令和4年3月)】



イ 若年層を中心とした献血の普及・啓発

- ・ 献血推進プロジェクト「いこう！献血」を令和3年9月21日（火）より展開
- ・ 「はたちの献血」キャンペーンの実施（1月、2月）
- ・ オンライン授業の定着を踏まえた新規献血者の獲得策の強化



献血実施へ

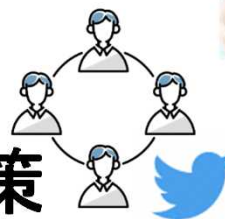
① マス施策

= プロジェクト認知拡大



② セグメント施策

= 献血に関与する（理解する・参加する）



- 新しい生活様式に配慮したオンライン形式の献血セミナーを開催

献血セミナー 笠井信輔さん「命の絆」



- オンライン授業等を前提とした献血者の居住地周辺の献血会場への誘導を行い、若年層の献血者数は前年度に比して増加

令和3年度 10代献血者数 21.1万人(前年度比7.1千人増)
 20代献血者数 70.9万人(前年度比3.9千人増)

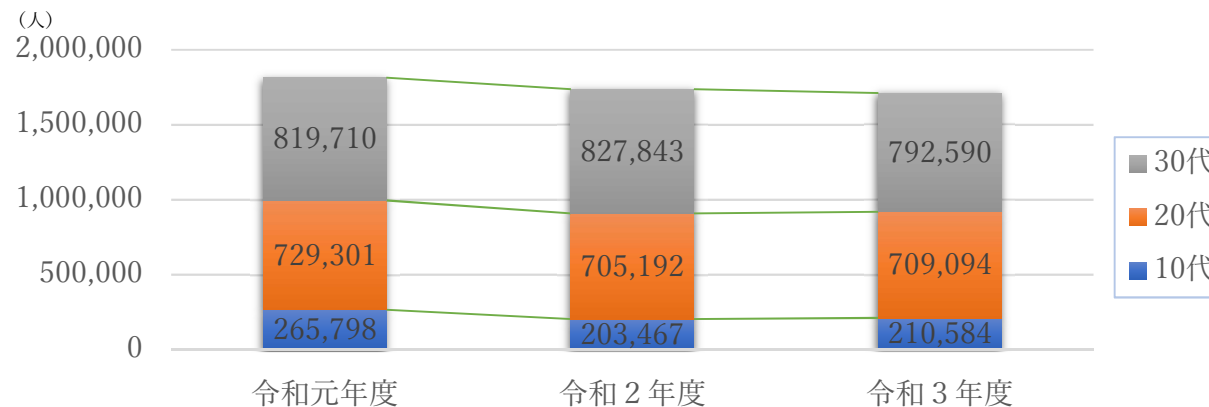
(3) 課題事項・今後の対応

- 血漿分画製剤(免疫グロブリン)の更なる需要増加への対策
- 将来の献血基盤の構築

課題

- 血漿分画製剤用原料血漿の重要性の社会的認知
- 高校・大学献血などの減少により、献血活動への参加のきっかけを失った若年層への対応

【若年層献血者数の推移(令和元年度～3年度)】



対応

- 原料血漿確保を専用とする献血ルームの設置【東京、大阪、愛知】
- 献血事前予約の更なる推進による安定的な献血血液確保体制の構築
- 献血セミナーの強化とラブラッドプレ会員(仮称)の登録推進により、献血未経験者に対し献血行動に繋がる情報を提供

【参考】 献血未経験者への情報発信

- ・ 献血Web会員サービス「ラブラッド」においては、献血可能年齢未満や献血未経験の若年層を主な対象としたスマートフォンアプリによる新会員サービス「プレ会員（仮称）」の募集を開始
- ・ 献血セミナーで関心を持った献血未経験者に対する情報の発信を強化



献血の認知度向上や情報発信を目的として開催。ラブラッドプレ会員登録を推進。



初回献血推進を目的としてサービス提供。

- ・ 献血の知識習得
- ・ 情報発信
- ・ イベント/ボランティア応募
- ・ 初回献血予約

複数回献血、予約献血の推進を目的としてサービス提供。

- ・ 献血予約
- ・ 事前Web問診回答入力
- ・ 検査結果閲覧
- ・ 情報発信
- ・ イベント/ボランティア応募

3 血液事業特別会計歳入歳出決算

(1) 令和3年度決算の概要

	令和2年度		令和3年度	増減額	増減率
収益的收入合計	1,646億円	→	1,660億円	14億円	0.9%
収益的支出合計	1,504億円	→	1,546億円	42億円	2.8%
収支差引額	142億円	→	114億円	△28億円	

	令和3年度	
資本的收入合計	118億円	(自己資金110億円、補助金等収入8億円)
資本的支出合計	118億円	(固定資産支出115億円、借入金等償還3億円)

(2) 令和2年度収支との比較(事業収益／事業費用)

事業収益の増加 10.9億円

ア	赤血球製剤の収益増加 (11.1万本増加)	10.3億円
イ	血漿製剤の収益減少 (1.3万本減少)	△0.9億円
ウ	血小板製剤の収益増加 (1.4万本増加)	1.2億円
エ	原料血漿の収益増加 (1.5万L増加)	0.3億円

事業費用の増加 36.0億円

ア	人件費	2.4億円
	・退職給付会計の決算整理額差異による増加(13.9億円) ※R2: △68.4億円、R3: △54.4億円	
	・退職給付費用の計上額の減少(△6.7億円)	
イ	材料費	0.9億円
	・採血数の増加に伴う材料費の増加(0.9億円)	
ウ	経費	40.3億円
	・システム開発検討等にかかる委託費の増加(16.0億円)	
	・消費税計上額の増加(8.5億円)	
	・減価償却費の増加(6.4億円)	
エ	たな卸調整額の減少	△7.6億円

(注)内訳は要因の一部を記載しているため合計額とは一致しないこと。

【参考】収支状況の推移

・H24～H27年度

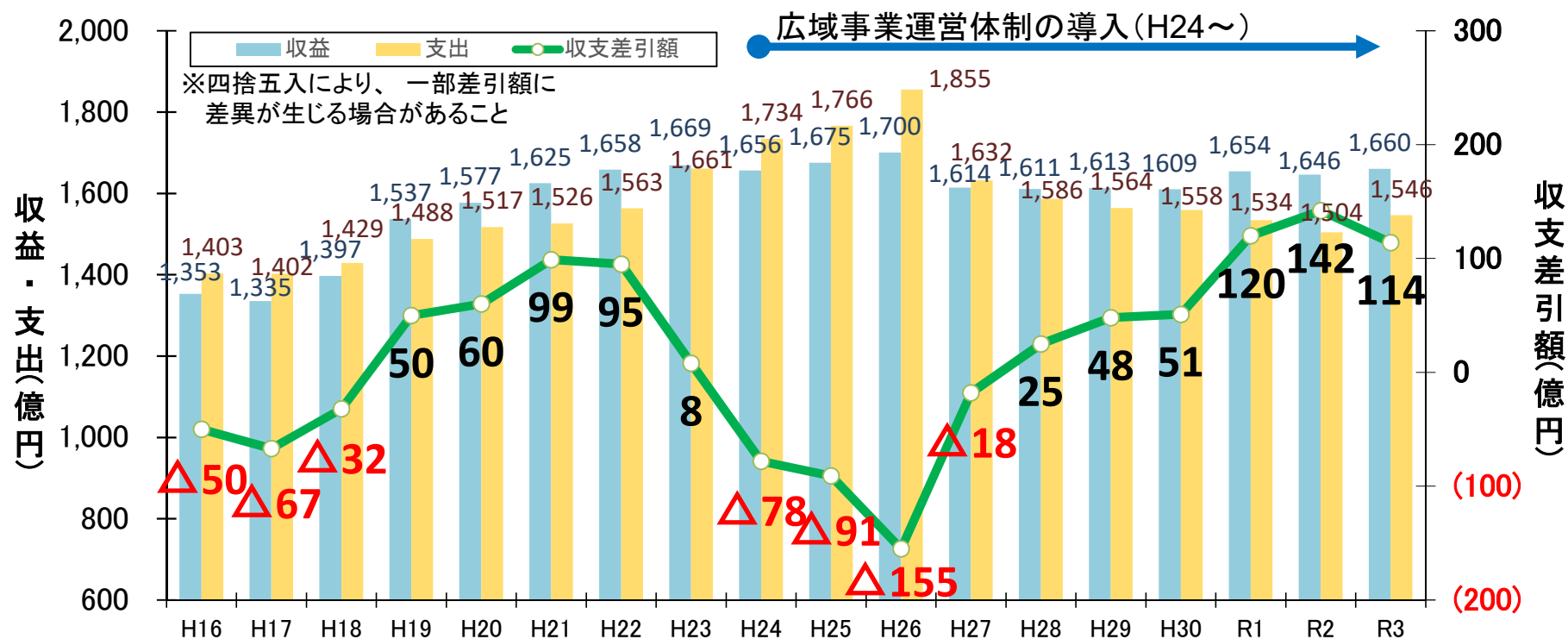
ブロック血液センターの整備、血液事業情報システムの導入等の大きな投資のため、広域事業運営体制導入以降、一時的に赤字決算が続いた。

・H28年度～

事業効率の改善や当該投資に係る減価償却費の減少、施設整備の凍結等の結果、黒字決算となっている。

・R3年度～

施設整備の凍結解除や献血者・医療機関に向けたITデジタル化等を取り進めるため、多額の投資を見込んでいます。



(3) 今後の投資予定

ア 血液製剤の安全性及び品質等の向上

- ・細菌スクリーニング及びPAS血小板製剤の導入
- ・赤血球製剤の有効期間の延長(令和4年度一変申請済) 等

イ ITシステムの導入

- ・次世代血液事業情報システム構築
- ・ICT技術を活用した健診体制の導入 等

ウ 新型コロナウイルス感染予防対策

- ・新型コロナウイルス感染予防対策にかかる車両の整備 等

エ 血液センター等施設の更新整備